

[掲載紙] 読売新聞「先読み深読み」

[掲載日] 2012年12月7日

[テーマ] データに現れぬ森林の効果

紅葉を求めて、上毛かるたに詠まれる「耶馬溪しのぐ」吾妻峡や「世のちり洗う」四万温泉を地元の友人夫妻と訪れた。溪谷の兩岸に色づいた樹林や断崖の下に流れるエメラルドグリーンの吾妻川、赤や黄色の木々に彩られた山間にたたずむ温泉郷など、美しい上州の秋を満喫した。

群馬は、県土面積の約3分の2を森林が占める、関東一の森林県だ。利根川上流域に広がる県内の森林は、木材供給や水資源の確保、災害の防止など、極めて重要な役割を果たしており、首都圏で利用される水の供給源でもある。

このような森林が果たす重要な役割を、経済データで捉えるのは案外難しい。林業の県内総生産は産業全体の0.1%にとどまるが、これは木材などの産出額に着目した統計データであり、林業関係者の努力によって確保されている水資源や防災の経済効果は計り知れない。

気がかりなのは、県内林業の担い手や森林の高齢化が著しいことだ。木材価格の低迷が長期にわたって続く中、林業従事者数は大きく減少し、高齢者の割合も高い。森林は伐採の先送りから植林が減少しており、民間人工林の高齢化が進んでいる。

◆ 林業従業者数（人）

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
1987年度	44	109	253	656	427	1,489
1996年度	34	63	129	272	595	1,093
2006年度	50	90	71	148	245	604
2010年度	74	126	115	147	301	763

(出所) 群馬県「群馬県森林・林業基本計画」

◆ 民有林の人工林齢構成（2009年度、ha、（ ）内は全体に占めるシェア・％）

1～20年生	21～40年生	41～60年生	61年生以上	合計
6,324	25,704	63,942	13,725	109,695
(5.8)	(23.4)	(58.3)	(12.5)	(100)

(出所) 群馬県「森林林業統計書」

県は、「はばたけ群馬プラン」に基づいて、新規林業就業者数（2011～15年度、年50人程度）の確保や森林整備の継続（15年度の整備面積目標、年7000㍓）を進め、森林の再生や担い手を支援する方針だ。また、森林の保全や整備を図るため、県議会や有識者会議の提言を受けて、年内にも森林環境税の導入に関する素案をまとめる意向のようだ。

地元企業の中でも、森林保全へ配慮する取り組みがみられる。機械メーカーのサンデンでは、「環境と産業の矛盾なき共存」を目指して、赤城山麓の事業所で森林などの環境保全に配慮した土地開発や生産体制の整備を行っている。このような企業の社会的な取り組みは、CSR（企業の社会的責任）の報告書などの形で情報発信されており、収益確保だけではない企業の努力をうかがい知ることができる。

県内には、八ッ場ダムの建設計画や痛みの激しい安中杉並木の保存など、森林に絡む話題が少なくない。世界遺産登録を申請している富岡製糸場の建造物にも、妙義山の杉や吾妻の松などが使われている。今後も、自然との共生や森林の再生に向けて、関係者が英知を結集して取り組んでいくことが必要だろう。

〔 日本銀行前橋支店長
相良 雅幸 〕